

2035~2040

SA-5

ライフログ（※）活用により、子どもと高齢者など異なる世代間での出会いや相互見守りが創出され、ゆるやかな関係構築と役割に応じた報酬が得られるようになる

概要

学びの方法が多様化する中で、学校での学びと社会での学びの境目が薄れ、さらに生産年齢人口の減少に伴い、子どもも学習活動の一環として社会で一定の役割を果たす機会が多くなる。AIによるマッチング等を活用した見守りサービスが充実することにより、子どものみで留守番している家庭の見守りが地域の高齢者によって行われるようになるとともに、子どもたちも地域の高齢者の手伝いや話し相手といった役割を持つことで、子どもと高齢者相互の見守りが実現する。また、地域の子どもたちによって高齢者の行動や生活の記録（ライフログ）の取得が進むことで、ライフログは孤独死や防犯対策などの高齢者に関する問題解決にも活用され、地域内に高齢の親を持つ県外在住の人から地域の子供たちへ対価が支払われるビジネスへと展開していく。

※人間の生活・行い・体験を、映像・音声・位置情報などのデジタルデータとして記録すること

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

地域内の接点が少なく、孤独を感じる子どもや高齢者が存在している



これからは

ライフログを活用し相互に見守りが実現、ビジネスへと展開する